

報道各位

2019年 TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式 ～2019年1月7日(月)午前10時30分 TOKYO FMホール～

株式会社エフエム東京は、2019年1月7日(月)午前10時30分より、TOKYO FM ホールにて、TOKYO FM コミュニケーションズ・グループ年賀式を実施し、代表取締役社長・千代勝美が、以下の挨拶を述べました。



皆様、新年あけましておめでとうございます。

さて、今年、2019年(平成31年)は己亥(つちのと・い)の年だそうで、「己(つちのと)」は十干(じっかん)の6番目で、生命力が溢れる時期を意味し、「亥(い)」は十二支の最後で、次世代の生命へ繋がる、タスキを渡す大切な準備期間を表すと言われます。すなわち、「確固たる信念を貫き、溢れる情熱を蓄え、今までやってきた事の充実を図り、次世代への飛躍を足場固めすべき年」だそうです。

本年は、5月1日に、「平成」から新しい元号に変わります。バブル絶頂期から始まったこの30年間、社会は、特にデジタルの発達によって、根底から構造的に変わりました。これからは、全く予測不能な変化が常に起き続けていくことでしょう。その中で、私たちは、常に変化に適応できる力を、そして、常に変化を自ら生み出し、変化の主演となる力を持つことが重要です。

我々の放送業界は、通信の高度化により、地殻変動の真っ只中にいます。広告主は広告効果を今まで以上にデータで求めるようになっており、放送事業者はそれに如何に応えるかが問われています。現在、聴取率調査の新たなあり方も、radiko データの活用も含めて検討に入っています。

当社は、自らの次世代プラットフォームとして「i-dio」を立ち上げ、アクセスログの収集や、ネット上での拡散力の実証に取り組んでいます。また、「WIZ RADIO」では、ビッグデータを収集し、デジタル・オーディオ・アートの市場を開拓すると共にコンテンツの検証と広告主へのデータ整備を整えようとしています。

さらに、それに加えて、到達率では直接表せない、音声の持つ、記憶に残す力、心理に深く刺さる力を立証し、音声メディアの価値向上に取り組んでいきます。

我々のデジタル化への取組みは、今から25年前、1994年に開始した文字多重放送「見えるラジオ」に始まり、1997年には、この技術をカーナビの位置補正に応用した D-GPS 事業を開発し、データ放送の新しいビジネスモデルを実現しました。

2003年には、TV に先駆けて、地上デジタルラジオの実用化試験を開始し、2009年には radiko に先駆け独自アプリによる日本初の IP サイマル配信を開始し、2015年には将来のデジタル・オーディオ・アド市場を見据え、日本で初めて米国 adswizz 社との戦略的業務提携を行い、2016年には次世代のコミュニケーション・プラットフォーム i-dio を開局しました。

このように我々は、どこよりも早く、将来における事業環境の変化や技術革新のスピードを見据え、新規事業を構想し、研究開発に取り組み、それを事業化してきました。そこには、どこにも負けない我々の構想力がありました。

そして我々の課題は、この構想を具体的に実現する力、「実現力」の強化にあります。そのためには、森羅万象の変化に敏感になる感性を磨き、国内外における政治、経済、社会環境等の世の中の変化や技術革新への強い関心を持つと同時に技術革新を自ら生み出し、我々の強い武器として活用する進取の精神と真摯な姿勢が必要です。

ご承知の通り、i-dio は、インフラ整備を一気に進め、これを活用し、事業展開する新しいフェーズに入りました。WIZ RADIO は、原点となるアプリの完成度を高めるために想定以上の時間を費やしてしまいましたが、こちらもようやく実装段階となり、強いプラットフォームにしていくフェーズに来ています。

i-dio に関しては、次世代のビジネスモデルをいかに実用化させるか、その実現に集中することです。WIZ RADIO に関しては、デジタル・オーディオ・アド市場を創造し、放送広告市場にこの新しい市場を加えて事業規模を拡大すると共に、WIZ RADIO のデータを活用してコンテンツの検証と改善をスピードアップし、放送広告の広告主にも市場の動態調査データを提供できるシステムを作り出し放送広告市場のシェアを拡大することで、全体の収益拡大を実現しています。

みなさんにはこの構想の本質的なところを理解していただき、これを自らの次の時代への財産とするために何としても成功させるという強い意志をもって実現に向けて組織を挙げてやり遂げてもらいたいと思っています。実現には、より多くのユーザーを獲得する必要があるため、そのためには何より、ユーザーの心に響くコンテンツが不可欠です。

そのために我々は、2018年度からの中期経営計画の重点テーマのひとつに、「心に響く統合メディアコンテンツの創造・強化」を掲げています。また、時代に適応するための「デジタルトランスフォーメーション」とそれを支える「人財力の強化」も重点テーマです。

2019年は、今までの我々の強みであった「構想力」から次の「実現力」へ、最大限の力を発揮し、目の前の課題を他人事ではなく、我々ひとりひとりが自分事としてみんなでシェアし、実現する1年にしていきたいと考えています。「わたし」という立ち位置を超えて、「わたしたち」という視点に立ち、組織力をもって、時代の変化に全員で立ち向かっていきましょう。

まずは、非常に厳しい状況にある今期の収支ですが、残りの四半期は、次年度につなげる非常に重要な3か月となります。第4四半期含め2019年は、次年度、50周年を迎える2020年度、更にその次の50年に向けたTOKYO FMグループ、JFN ネットワークの次世代の発展に繋げる準備を整え、情熱を一つにするそんな1年にしていきましょう。

本年も皆さんと共に、さらに楽しく、力強い会社に成長出来ますようご協力をお願い申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。